

平成23年度

## ”萌える天北オロロンルート”活動報

1. ルート運営活動計画の進捗状況
2. 活動団体の活動状況及び課題
3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題



参考資料1 これからのプロジェクト

(1) プロジェクトの構成

活動のテーマ		『暮らしぶりの映し。北の光が続く道。』																													
		1. 景観			2. 食			3. 環境保全			4. レクリエーション			5. 歴史・文化																	
ルートストーリー（将来展開）		<p>萌える天北オロロンルートには、この地の風景を楽しむために多くの人々が訪れています。地域の人は、沿道に花を植え、見苦しい看板や廃屋を取り除き、また、地域にふさわしい建物や施設のデザインを検討しながら、ルートの風景に愛着と誇りをもって、様々な取り組みを継続的に進めます。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、まず自らが自然の恩恵である地元食材を味わい、楽しむために、生産者と消費者が一体となった地域ぐるみの活動を展開します。また、さらに多くの人たちに味わってもらうために、その魅力をPRし、新しいメニュー作りにも取り組みます。このような活動を通して地域ブランドを構築し、この地域の「食」が全国、全世界へと発信します。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、CO2削減に向けた新エネルギーの導入や、身近なゴミの問題、そして地域の生態系を守り育てる活動などを通して自然との共生を実践し、環境先進地域として、他に先駆けた取り組みを進めます。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、私達が楽しんでいるアウトドアスポーツやカルチャーメニューを一つ一つ丁寧に用意するとともに、迎える側としてのホスピタリティを充実し、地域と訪れる人々との間に笑顔と暖かい交流を世界へと広げます。</p>			<p>萌える天北オロロンルートでは、先人から受け継いだこれらの貴重な資源を守り育て、そして、過去から現在にいたる悠久の物語を語り継ぎます。また、この地ならではの気象や地形、また人々の気質や共有される価値観に根ざした生活文化を将来に伝えます。</p>																	
基本方針		愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出			自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信			地域に優しい『くらしぶり』のお手本づくりと促進			暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり			先代の暮らしぶり新たな価値観を将来に伝え楽しむ																	
基本方針におけるキーワード		の演出	風景との出会い	観つくり	花とみどりの景	成	愛着と誇りの醸	づけ	地場産品の魅力	画	新メニューの企	構築	地域ブランドの	づくり	クリーンエネルギーのイメージ	組み	ゴミ対策の取り	保	身近な生態系の	のサポート	ロングドライブ	ア	身近なアウトド	活動による交流	各種カルチャー	と活用	歴史資源の保全	伝承	次世代への歴史	独自の生活文化の発信	
プロジェクト	1. フォトコンテスト	●																						●						●	
	2. エゾカンゾウ植栽活動			●														●						●							
	3. 景観診断	●				●															●										
	4. 菜種油・ヒマワリクリーンエネルギー	●		●											●										●						
	5. フォーラムの開催	●											●													●					
	6. 食材オーナー制度								●		●		●																		
	7. 萌天の森				●										●																
情報発信（全項目に関係）		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
長期展望	（想定）ルートを満喫できるツアー	●					●							●												●					
	（想定）萌天グッズの企画・開発											●																			●
	（想定）食と観光の情報デスク	●								●																●					



## エゾカンゾウ植栽プロジェクト

【内 容】 留萌地方の日本海に面した道路沿いに咲く自生種であるエゾカンゾウを増やして、特色ある道路景観づくりを目的とする本事業は、小平町から端を発し、近隣町村でも苗や種を採取するための栽培や植栽に広がりを見せている。

平成23年度は、各戸での苗づくり・植栽の他、小平町の国道232号沿いにあるエゾカンゾウ花壇の整備を行った。

【日 時】 平成23年6月8日（5月～10月）

【場 所】 小平町

【主 催】 小平行来（小平町）

【協 力】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議、小平町、留萌開発建設部

【参加人数】 30人



エゾカンゾウ花壇 整備の様子



開花したエゾカンゾウ（国道232号小平町）

## 景観診断プロジェクト

【内 容】 平成20年度に実施したワークショップや現地視察、景観づくり方針（案）を受けて、景観阻害要因の改善に向け、平成21年度に留萌北部（天塩町、遠別町、初山別村）、平成22年度には留萌中部（羽幌町、苫前町、小平町）、そして平成23年度には留萌南部（留萌市、増毛町）を対象に、国道の道路付属物に関わる道路景観の改善を検討し、沿道景観における道路付属施設等の具体的な整備計画の策定を行いました。

検討にあたっては、萌天ルート幹事や市町村担当者、地域のボランティア団体等からの意見を収集し、管内の地域特性を踏まえた計画として取りまとめました。

【日 時】 平成23年10月～平成24年3月

【場 所】 留萌市、増毛町の2市町を対象

【主 催】 留萌開発建設部

【協 力】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議

【参加人数】 21人



意見交換会（留萌開発会議室）



地域と調和した道路付属物の検討例（看板の撤去）

## 地域情報受発信プロジェクト

- 【内 容】①豊かな食や資源に恵まれながら、地元住民ですらその魅力に気づいていないため、地域情報員が地域内外に情報を発信し続ける仕組みを構築し、ウェブサイト、フリーペーパー、コミュニティラジオ、市町村広報誌をアウトプットとする活動を5年間継続している。
- ②地域情報の「どこ？」をビジュアルで伝える「オロロン手書きマップ」を発行し好評を得ている。過去のストックを基礎としながら、情報収集作業により築いた地域とのゆるやかな関係性により、他に類を見ない全市町村が統一のイラストマップ（留萌観光連盟製作）を実現しました。
- ③ルート内の過去の活動を紹介するウェブページへのアクセスをきっかけに、BS朝日「新しい道をゆこう。（2011年11月9日放送）」の取材協力の依頼があり、ルート紹介と合わせて、シーニックバイウェイ北海道のPRに大きな効果をあげている。

【日 時】 通年

【場 所】 留萌管内全域

【主 催】 萌える天北オロロンルート運営代表者会議（地域情報受発信システム実行委員会）  
るもい観光連盟

【協 力】 北海道留萌振興局、留萌管内8市町村観光協会、留萌開発建設部

【参加人数】 150人



ウェブサイト（毎日）



フリーペーパー  
「るもいfan」  
（毎月）



BS朝日「トヨタプレゼンツ新しい道をゆこう。」



オロロン手書きマップ



4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

前段

ルート名称: 萌える天北オロロンルート		報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2012/3/31
---------------------	--	--------------	-----------------

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成23年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	道路付属施設の検討(景観検討プロジェクト)	10月～3月	留萌市、増毛町、留萌開発建設部	・留萌開発建設部は、平成20年度に把握した道路景観および地域景観に関する意向を踏まえて、平成23年度は留萌市、増毛町において、道路構造について現地の詳細調査を行った。また、地域の方々や道路や付帯施設の構造などについて話し合い、具体的な対策方針を策定することによって、今後、新設される付属施設には対策方針に配慮していく予定。 ・本年度をもって景観を考慮した道路附属物検討は終了。今後は、成果である景観配慮の優先順位により、道路附属物の更新、新設を行っていく。	配置検討案を基に、具体的な整備を進めていく。	2
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	ヒラメ底建網オーナーin遠別プロジェクト(食材オーナー制度プロジェクト)	6月19日	留萌開発建設部 遠別町 留萌振興局	・例年、イベント運営協力や実施機関の調整および、萌える天北オロロンルートの活動紹介と道路事業を広報するパネル展を行ったが、今年度、東日本大震災などの影響などから漁船の乗り込みやブース展開を自粛した。	地域ブランド構築のため、継続に向けた行政としての支援体制の検討が必要。	3
環境保全	地球に優しい「くらしぶり」のお手本と促進	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	5月～10月	留萌開発建設部 小平町	・「小平行来」メンバー各戸での苗作り、植栽の活動が行われ、6月には留萌開発建設部と小平町が、国道232号小平町のエゾカンゾウ花壇の整備に参加した。 ・課題としては、必要な資材を毎年提供して貰える協力体制を構築する必要がある。	地域で今後も継続して実施出来るように協力していく。	1
情報提供活動	ルート活動の情報共有	行政連絡会議情報の配布	通年	行政連絡会議全構成機関	行政連絡会議事務局(留萌開発建設部)が、行政連絡会議全構成機関へ「萌える天北オロロンルート」や行政の活動状況を情報共有するため、情報誌を作成し配布した。	今年度は4回の配布であった。今後はタイムリーな情報提供に努め、分かり易く効果的な内容で今後も継続して作成していく。	
	「萌える天北オロロンルート」の地域への浸透	道路情報板での「萌える天北オロロンルート」表示	通年	留萌開発建設部	留萌開発建設部が、シーニックバイウェイ「萌える天北オロロンルート」を地元や観光客などに認知していただくことを目的に、シーニックバイウェイルート沿線の国道情報板に「萌える天北オロロンルート」の表示を実施。	シーニックバイウェイ及び萌える天北オロロンルートの認知度向上のために、今後も継続的に実施する。	4～6
	「萌える天北オロロンルート」の地域への浸透	ドライブ情報紙の発行	通年	留萌開発建設部、留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町	・留萌開発建設部が管内各自治体で開催されるイベント情報を中心にドライブに役立つ情報を提供する「ドライブ情報紙」を夏期を中心に11号発行。管内観光への誘導を目的とし、管内はもとより周辺管外の道の駅にも配置した。 ・課題としては、観光の閑散時期における誘導手段の検討に苦慮。		4～6
	ルート情報の提供と創出	萌える天北オロロンルートホームページのリンク	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	管内9市町村と留萌開発建設部は、萌える天北オロロンルートの広報の為、各行政機関のホームページに萌える天北オロロンルートHPのリンクを掲載した。		4～6
	ルート情報の提供と創出	「るもいfan.net」のリンク及び「るもいfan通信」の掲示	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、天塩町、幌延町、留萌開発建設部	管内9市町村と留萌開発建設部は、地域情報発信システム実行委員会で作成している「るもいfan.net」を各行政機関ホームページにリンクを掲載。また、フリーペーパー「るもいfan通信」を各関係機関庁舎内に掲示した。		4～6

※表中「★」はH23新規活動

5. 平成22年度活動報告への助言に対する状況報告

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 代表 西 大志	報告年月: 2012/3/31
---------------------	--------------	-----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
<p>シーニックバイウエイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。</p> <p>特に、本格実施から6年が経過し指定ルートも拡大、地域特性に応じた多種多様な成功事例や、課題等も明確になってきていることから、それらを共有しシーニックバイウエイ北海道をさらに活性化させる方策を検討されたい。</p>	<p>・情報発信においては、本年度、ルート内を中心に毎月発行の情報誌を、活動団体であるFMもえるが中心となり、各市町村の活動団体のみなさんからも情報を収集し、発行している。また、活動同団体の各市町村観光協会からなる留萌観光連盟より手書きMAPを作成するなど、こちらも、作り上げには、様々な詳細な情報の調べ上げに、地域の方々により作られた。情報発信、PR活動については、年々厚みを増していると考えている。このことにより、テレビ局の番組作成のコンセプトが、この日本海地域の資源やシーニックの取り組みが合致するとして、番組制作、撮影がなされ、当ルートも製作側と共に協議を行った。</p> <p>・地域ビジネスの展開は、これまでの動きと大差ない現状であり、更なる検証を行い、実際に動きとして具現化する必要を感じているが、当ルートのモットーでもある焦らない中で、しっかりと築きあげたい。</p> <p>・ルート間での目的意識も微妙に違う中において、どのようにオールシーニックを作っていくかという視点で当ルートも中間世代のルートとして役割を認識している。ルート間での情報交換や繋がりを意識し、お互い高めあっている最中である。</p>	

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月: 2012/3/31
---------------------	--------------	-----------------

平成22年度活動報告への助言	平成23年度 状況報告	備考
<p>シーニックバイウエイ北海道の持続的推進を図るため、引き続き情報発信やPR活動等によるブランドの形成、地域への浸透に努めるとともに、地域ビジネスの展開、人材育成等によるルート活動の基盤強化や幅広い関係機関による支援体制の強化に取り組まれない。</p> <p>特に、本格実施から6年が経過し指定ルートも拡大、地域特性に応じた多種多様な成功事例や、課題等も明確になってきていることから、それらを共有しシーニックバイウエイ北海道をさらに活性化させる方策を検討されたい。</p>	<p>・ルート活動を行政に広く浸透させるため、「行政連絡会情報」でルート活動の情報を発信している。</p> <p>・シーニックバイウエイ北海道の情報提供や情報共有を図るために、ルート運営行政連絡会議の有効活用や、行政間の積極的な連携体制を確立する必要がある。</p> <p>・人材の育成については、行政担当者のルート活動へ積極的な参加を促し、シーニックバイウエイへの理解を深めて、共に支える意識を高めることが大切である。</p> <p>・ルート活動の基盤強化については、ルート活動が継続して実施できるように、行政としての更なる支援を進め、地域でのルート活動を広めるとともに、地域住民に浸透し地域に根ざした活動を行うことが重要である。</p> <p>・行政内部でも、担当者以外の者がルート活動に積極的に参加するように、ルート活動をPRする事が大切である。また、ルート間の連携を強化すべく、他ルートにも積極的にルート活動を発信して、ルート間の情報提供や情報共有を進める事が肝要である。</p> <p>・ルート活動の役に立てるように、そして、今後も持続可能なルート活動を進めていくために、行政としてどのような支援・協力ができるか、今後も検討していく必要がある。</p>	